



築理会 会報

2025 Spring vol.75

東京理科大学工学部建築学科校友会

CONTENTS

- 先輩と語る2024
- 2P **OBOGと学生が語り合う未来への道標**
- 2024年度築理会賞審査会
- 4P **建築界で活躍中のOBOGが白熱の審査**
- 6P **徹底予測! 2025築理会**
- 7P **Web名簿システムへの登録・確認はお済みですか?**

INFOMATION

- 築理会・野田建築会合同講演会 決定!
2025年5月10日(土) 15:10~16:30
「デジタル×建築」の現在地と未来(仮)
高木秀太さん(2009年卒)
- 第20回ホームカミングデー 10月19日(日) 開催
- 学生と卒業生交流イベント「先輩と語る2025」
11月22日(土) 開催

築理会の最新情報を、HP、メルマガ、Facebookで配信しています。
築理会活動へのご意見・ご要望、会員の情報がありましたら
お寄せください。 chikurikai@gmail.com



司会

大村 聡一郎

(大学教員・設計事務所共同主宰)

山岸 隆

(組織設計事務所)

登壇

辻 佳奈子

(工務店)

小林 絢

(コンサルタント会社)

菊地 純平

(不動産会社)

杉山 和駿

(公務員・元施工管理)

谷所 良樹

(設備工会社)

先輩と語る2024

OBOGと学生が語り合う未来への道標

2010年頃から毎年実施してきた「先輩と語る」。2024年は「先輩と語る2024」として、2014年に建築学科を卒業した8名のOBOGが参加しました。それぞれ異なる業界や経歴を歩んでおり、多様なバックグラウンドを持つメンバーです。

「先輩と語る」は2023年から建築学科の授業に組み込まれ、リアルとオンラインのハイブリッド形式で

OBOGと学生が対話を行っています。2024年は前後半の2部制で実施。前半は8人のOBOGが自身の10年間のキャリアを年表にまとめ、経歴や業務の変遷について、各自5分程度で自己紹介しました。後半は、学生からの質疑応答を中心としたセッション形式で進行。授業に参加した学生から直接質問を受けることで、自由闊達な議論ができました。

金町のいま 栢木研究室の活動紹介

古民家を2日ばかりで実測

(修士1年生 神尾 凜也、2023年卒)

私が所属する「栢木まどか研究室^{かやのき}」は歴史・意匠系の研究室で、まち歩きや古民家の実測調査といった活動をしています。最近では清澄白河を歩き、東京都現代美術館や同潤会アパートを栢木先生に現地で解説してもらいました。今年は研究室の人数が20名強と例年より多く、解説にはLINE通話を活用しました。ガイドを聞きながら色々な場所を歩くことで見識が深まります。

古民家の調査では、10名程度の学生が荒川区の邸宅に出向きました。庭を含めて調査範囲を手分けし、コンベックスと鉛筆を手に持って、諸室の大きさから建具の厚さまで隅々を2日ばかりで実測しました。実測したデータは一つ一つつなぎ合わせ、修士論文にまとめました。

栢木研究室ではこうした建築史に関する活動や調査を行っていますが、意匠系の側面も持つため、

学部生は全員が卒業設計を履修します。毎年、卒業設計が本格化する12月になると、多くの学部生が先輩とエスキスを始め、研究室がにぎわいます。栢木研究室には各学年の先輩と後輩がチームになって、卒業論文の添削や卒業設計の相談を行う「縦割り」という制度があるため、他の研究室に比べて学年を超えた縦の関わりが活発です。



実測後に学生が資料をチェックしている様子



オンライン登壇
金子 寛明
(ゼネコン構造設計部)

例えば学生からは、「10年目を迎えた現在についてどう感じているか」や「これから先のキャリアをどう考えているか」といった質問がきました。OBOGは、「会社の中堅として業務における裁量が増し、役割の変化を実感している」や「学生時代の活動が様々な形で今につながっている」といった生の声を包み隠さず語りました。OBOGは業務内容やキャリアの方向性がそれ

ぞれ異なるため、1つの質問に対して多様な回答がきました。同じ世代であっても異なる道を歩んでいることが浮き彫りとなりました。

特に、「自身の強みは何か」という質問には様々な回答がきました。OBOGは、「学生時代とは異なる視点でのコミュニケーション能力の必要性」や「仕事に新しい技術を積極的に取り入れ、専門性を確立することの重要性」などを挙げました。転職を経験したOBOGは、「適性のある職種に変わった経緯」や「業務でやりたいことをどう実現するか」を語りました。

具体例を交えた的確なアドバイスは、後輩たちに良い刺激を与えたのではないのでしょうか。学生たちはOBOGの話に熱心に耳を傾けながら、今後の職業選択や働き方について深く考えている様子でした。授業の後に実施した、出席と紐づくアンケートでは、「将来を考える良いきっかけになった」という意見が多く、非常に好評でした。

「先輩と語る」は今後も継続していきます。学生にとっては将来の仕事や生活についての不安と疑問を解消する場に、OBOGにとっては自身の10年間を振り返り次世代に経験や思いの「バトン」を渡す貴重な機会になる活動です。2025年の司会は2015年卒業の兵郷喬哉さんと進藤英明さんに務めていただく予定です。今後も、「世代を超えた学びの場」としてますます発展することを願っています。

(山岸 隆、2014年卒)

金町のいま 「りぼん」活動報告

「りぼん2024」が完成！

(「りぼん2024」代表 神尾 凜也、2023年卒)

東京理科大学工学部建築学科の卒業設計や設計課題をまとめた作品集「りぼん」。2024年度で19冊目となる「りぼん2024」を、2月25日に無事に発行できました。本誌には2023年度の卒業設計や設計課題に加え、研究室紹介や特別企画（社会人との座談会・新任講師紹介）を掲載しています。

作品を掲載していますので、学生の皆さんはぜひ「りぼん」を手にとって、設計の参考にしてください。OBOGの皆さんは、最近の学生がどんな設計をしているのか探ってみてください。東京理科大学の神楽坂や葛飾、野田キャンパス内にある生協で販売しています。

私たちりぼん委員の「一押し」は卒業設計のページです。今回から作品に一言メッセージを添えてもらいました。作者の個性がにじみ出ていて、くすりと笑える楽しさがあります。冊子の素材にもこだわり、表紙にはざらざらとした手触りの良い紙「Mr.Bスーパーホワイト」を、内側はインクの発色が良い紙「b7トラネクト」を使いました。建築学科の集大成にふさわしく、ずっしり重い、高級感のある作品集に仕上がりました。

りぼん2024は、築理会を始め、多くの協賛企業様のご支援によって本年度も無事に発行する事が出来た、誠にありがとうございます。これからもりぼん委員会をよろしく願っています。

新築からリノベーション、都市計画まで幅広い





2024年度築理会賞審査会

建築界で活躍中のOBOGが白熱の審査

2024年度の築理会賞は石井万葉さんに

ALUMNI FORUM



2024年度築理会賞審査会の様子

東京理科大学工学部建築学科の2024年度卒業制作講評会・築理会賞審査会が25年2月15日の午後、東京理科大学葛飾キャンパスで開かれ、築理会賞が決まった。当日は、研究棟7階のプレゼンテーションルームに建築界で活躍中の理科大OBOGの築理会賞審査員らが一堂に会し、学生のプレゼンに真剣に耳を傾けた。学生



築理会賞を受賞した石井万葉さん（左手）と築理会賞審査会の進行役を務めた川辺直哉審査員長。左下が受賞作「イセザキ・クロニクル - 消えゆくファサードを受け継ぎ創る未来 -」

たちが見守るなかで行われた議論白熱の講評・公開審査は約5時間に及んだ。

この日の講評会・審査会の対象となったのは、全48作品から選ばれた15作。1人ずつ学生がプレゼンし、非常勤講師や築理会審査員がそれにコメントするという繰り返りで講評会は進んだ。その後、築理会賞審査会に移った。

審査員は、進行役の川辺直哉氏（94年卒、川辺直哉建築設計事務所、審査員長）をはじめ、原田由紀氏（96年卒、日建設計）、寺本健一氏（理工98年卒、office of Teramoto）、常山未央氏（05年卒、mnm）、クマタイチ氏（10年卒、TAILAND）の精鋭5人。まずは別室で審査し、4作に絞った上で公開審査に入った。

築理会賞に選ばれたのは、石井万葉さんによる「イセザキ・クロニクル-消えゆくファサードを受け継ぎ創る未来-」。横浜市中区のイセザキ・モールには、アントニン・レーモンドによるガラス張りの不二家横浜センター店をはじめ、窓が大きく、商品が窓いっぱい飾られたビルが立ち並んでいた。平面上、放射状に広がる複数の壁の前面にこうしたファサードを保存。窓を使って情報発信することでファサードと一体で文化を継承していこうという作品だ。現在、ドン・キホーテが新店するビルの一区画を建て替える。

審査会では、最初に学生4人がひと言ずつコメント。1作ずつ質疑応答を行った後、一次投票として各審査員が2票ずつ投じた。その結果、5票入ったのが石井さんの作品。それに次ぐ4票が黒川隆さんによる「原っぱのスタジアム」だった。上位2者での決戦投票で、3票対2票で競り勝ったのが石井さんだ。

次点になった作品は、広島県福山市の河川敷に立つスタジアムで、壁をなくし最大で2万人を収容する。波打つような造形のスタンドは両面に座席を持ち、花火大会やマリンスポーツ開催時には、それを眺めるスタンドにもなる。試合開催日にとどまらず、日ごろ利用できるのが最大の特徴だ。住民がこの場所ですつながるプランを考えた。投票数が物語るように、築理会賞に選ばれても不思議ではない作品だった。

築理会賞決定後には、建築学科教員による学科賞最優秀賞、さらに非常勤講師の投票による非常勤講師賞が発表された。共に選ばれたのは石井さんによる「イセザキ・クロニクル」だった。

非常勤講師の一部に感想を求めたところ、「今年は、場所性を大切に作品、作り込んだ作品が少なかったことが気になる」といった声が複数聞かれたことを付け加えておく。

（森 清、1985年卒）



学科と連携を深めつつ 野田建築会との合同行事も実施

2025年度は築理会と野田建築会の連携が深まり、さまざまな合同行事が行われる。「徹底予測！2025築理会」として、1月23日（木）に行われた「2025年築理会・野田建築会合同新年会」では、今年予定されている主な行事を担当者が紹介した。築理会会員の皆様もぜひ積極的にご参加ください。

2025年1月23日（木）、PORTA 6階理窓会倶楽部で、61人+Zoom 6人参加のもと、築理会・野田建築会合同新年会が開催された。「年間イベントの予告」として2025年度に予定されている主な活動をそれぞれのイベント担当者が力強く説明した。

トップバッターとして登場したのは、りぼん実行委員会の神尾凜也さんと江口太郎さん。大学院修士1年生の2人が発行に向けて最後の追い込みに差し掛かっ

ている「りぼん」の原稿を手に、「交差」をコンセプトとした19冊目となる「りぼん」を紹介した。

2月15日実施の「卒業制作講評会・築理会賞審査会」について説明したのは、郷田桃代教授（88年卒）。川辺直哉氏（94年卒）を審査員長に、建築界で活躍中の理科大OBOG 5人が公開審査で「築理会賞」を選定することを説明した。

5月10日（土）には校友会運営の来年度の方針を決める「2025年度築理会総会・懇親会」が開催される。今年の講演会・懇親会は、ここ数年、相互連携を強める野田建築会（創域理工学部建築学科の交友会）と合同で行う予定だ。築理会の近藤剛啓副会長（84年卒）と野田建築会の菱崎嘉昭会長が両会の合同計画について述べた。6月28日（土）にPORTA神楽坂第2会議室で野田建築会主催で行われる「ノダ・アーキサロン」も連携行事の一つと位置付けていくことになる。

10月には今年で20周年を迎える「東京理科大学ホームカミングデー」が、11月下旬の3連休には、一昨年

から学部3年生のキャリアデザインの授業に組み込まれた「先輩と語る」が行われる。「先輩と語る」の幹事として、卒業から10年となる2015年卒の兵郷喬哉さん、進藤英明さんの2人が意気込みを語った。

合同新年会は築理会・野田建築会両会長による開会挨拶・乾杯のあと、教職員からの最近の学校の話紹介や第1期生の森本仁さんをはじめとした参加者の近況報告、佐野吉彦前築理会会長（79年卒）の歌唱指導による校歌斉唱などが行われ、2時間半の宴はあっという間だった。（安達 功、1986年卒）

2025年に行われる主な活動予定

1月23日（木）	築理会・野田建築会合同新年会実施	(⇒本記事)
2月15日（土）	卒業制作講評会・築理会賞審査会	(⇒P4、5)
2月25日（火）	「りぼん2024」発行	(⇒P3)
3月18日（火）	東京理科大学工学部建築学科第60回卒業式	
4月初旬	「築理会会報」春号（vol.75）発行	
4月4日（金）	「ようこそ築理会へ！」新入生ガイダンス実施	
5月10日（土）	築理会総会・懇親会（野田建築会と合同）	
6月28日（土）	「ノダ・アーキサロン」開催	
9月下旬	「築理会会報」秋号（vol.76）発行	
10月19日（日）	「ホームカミングデー」を開催（葛飾キャンパス）	
11月22日（土）	「先輩と語る2025」を開催（葛飾キャンパス）	

2025年築理会・野田建築会の合同新年会の様子。Zoomによるオンライン参加を含めて67人が参加。盛会のうちに2時間半はあっという間に過ぎ、最後は参加者全員で全体写真を撮影（写真：飯山道久、1974年卒）

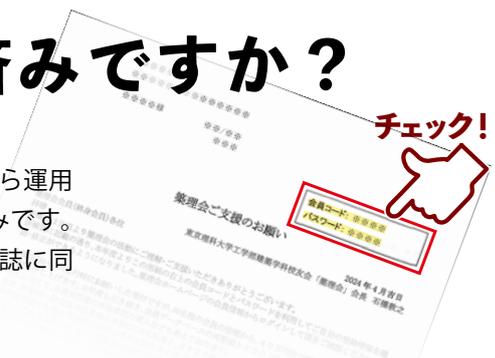


Web名簿システム

約400人が登録済み!

会員情報の登録・確認はお済みですか?

Webで会員情報を登録・照会できる「会員データベース」は、2024年から運用を始めました。会員の皆さまに、会員情報を入力・更新していただく仕組みです。会員データベースには、築理会のホームページからアクセスできます。会報誌に同封した振込用紙の右上にあるIDとパスワードを使ってログインしてください。



登録方法

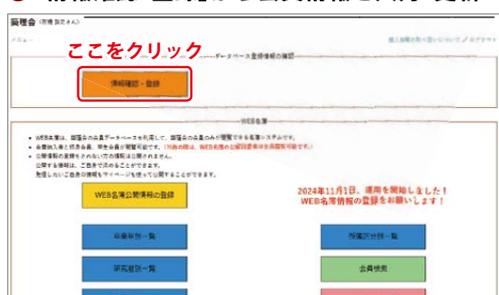
① まずは築理会HPにアクセスして「会員情報」へ



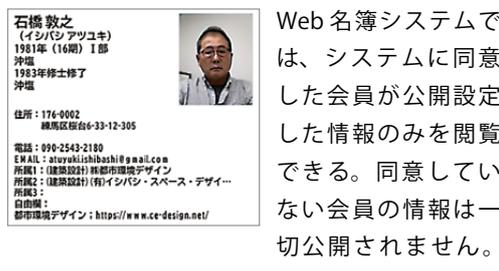
② 利用規約に同意してIDとパスワードを入力



③ 「情報確認・登録」から会員情報を入力・更新



④ 利用規約に同意してIDとパスワードを入力



- 2025年度の新入生、「学生会員」の皆さまへ
5月末(予定)までに、皆さまの大学アドレスに会員IDとパスワードをお送りします。
- 新入生以外で在学中の、「学生会員」の皆さまへ
築理会ホームページの問合せフォームを使ってリクエストメールを配信してください。



鋼骨構トップ・プレートジョイント工法 エクス・ティービー

ECS-TP

鉄骨構造物に革命を。
杭と柱の一体化。

株式会社 三誠
SANSEI INC.

Tel: 03-3511-0211 Fax: 03-3551-0217 Mail: info@sansei-inc.co.jp
〒104-0033 東京都中央区新川 1-8-8 アクロス新川ビル 9F

北海道営業所 / 東北営業所 / 新潟営業所 / 北陸出張所 / 北関東営業所 / 千葉出張所 / 神奈川出張所 / 関西営業所 / 中四国営業所 / 九州営業所 / 沖縄営業所

エアード震住宅

究極の地震対策住宅

株式会社 三誠AIR断震システム
http://www.airdanshin.jp/

国土交通大臣認定取得
国住指第2036号

①通常時
地震センサーが常に中点を監視しています。

②地震発生時
地震センサーが一定以上の地震波を検出すると即時にエアータンクから空気が送られて家を浮かし、揺れを断ち切ります。

大地震が来ても大丈夫
震度7の揺れを1/30に軽減。"エアード震住宅"なら、毎日安心して暮らせます。

築理会会長から新「学生会員」へのメッセージ



築理会の活動に参加して先輩達と交流してください！

築理会会長
石橋 敦之
(第16期1981年卒)

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！
これから皆さんは東京理科大学の学生であると同時に、築理会の「学生会員」です。夜間主社会人コースの学生や、他大学から大学院工学研究科建築学専攻に入学した学生も含めた全員が対象です。在学中の会費は不要ですのでご安心ください。

築理会は工学部建築学科の卒業生の会で、1966年卒の1期生から数えて9000人近くの会員がいます。毎年さまざまなイベントや会合を開催し、理科大でもしっかり活動しています。活動内容は年2回発行している会報誌でお知らせしています。

是非OB会の活動に参加して、先輩達と交流してください！いろいろな人がいて楽しいですよ！

2025年度 **今年初** 築理会総会、築理会・野田建築会合同 講演会+懇親会開催のお知らせ

日時：5月10日(土) 14:00スタート
総会・講演会：神楽坂校舎1号館17階講堂及び
Zoomミーティング
総会の申込：<https://forms.gle/Cbq29SAKSD6ztuUT7>
講演会の申込：<https://forms.gle/RybGAT2ccHmCYSTg9>
懇親会：PORTA神楽坂6階 理窓会倶楽部
会場参加費：4,000円
野田建築会との総会同日開催、合同講演会・懇親会です。
詳細、参加申し込みは後日ホームページで公開予定です。
会員データベースにメールアドレスを登録された方にはメールでお知らせします。

築理会・野田建築会合同講演会 「デジタル×建築」の現在地と未来(仮)

講演者：高木 秀太 氏 (2009年卒)
建築家、プログラマー。合同会社高木秀太事務所代表。
日時：5月10日(土) 15:10スタート
これまでに、東京大学、北海道大学、慶應義塾大学、東京理科大学、法政大学、工学院大学、多摩美術大学、長岡造形大学で非常勤講師を務める(一部担当終了)。



(写真：櫻井勇弥)

第20回ホームカミングデー (東京理科大学・理窓会共催)を開催します。

日時：10月19日(日) 11:00～16:00
場所：葛飾キャンパス
音楽家「**鬼武みゆき**」の演奏会を開催決定。
築理会・野田建築会が合同で講演・展示会を開催します。
詳細は後日理窓会ホームページでお知らせします。

学生と卒業生交流イベント 「先輩と語る2025」を開催します。

日時：11月22日(土) 予定
場所：葛飾キャンパス
「10年後のわたし」をテーマに、卒業後10年目のOBOGが学生たちに職場や業界、仕事のリアルを伝えます。

寄付への感謝と今後のご支援のお願い

親愛なる同窓生の皆様
2024年も多数の同窓生の皆様から多大なるご寄付を賜り、心より感謝申し上げます。皆様の温かいご支援により、同窓会活動をさらに充実させることができました。いただいたご寄付は、デジタル名簿、築理会賞、リボンほか学生への支援、築理会イベント等多様な活動に活用させていただきました。今後も、同窓会活動を通じて皆様との絆を深め、母校の発展に寄与してまいりたいと考えております。引き続き、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

編集長：安達 功
編集委員：森 清、中東 壮史、近藤 剛啓、飯山 道久、
栢木 まどか、大村 聡一朗、山岸 隆

編集後記：安達 功
卒業後10年のOBOGが学生と対話する授業「先輩と語る」、建築界で活躍する同窓生が卒業制作を審査する「築理会賞」など、今号では学科と連携を深める築理会の活動をレポートしています。この冊子を手にとった新入生の皆さんも築理会の「学生会員」です。ぜひ一緒に活動しましょう！